

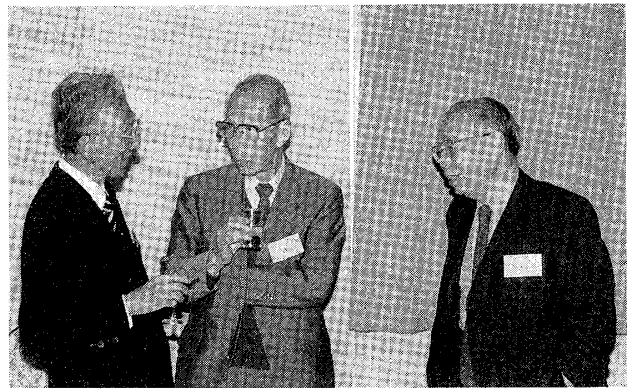


特別講演・長谷川 IFORS 副会長

西支部での4つの研究部会や、関西支部での現在の会員数（学生56，全体450）など、関西支部の活動状況について紹介された。また、会員を増やすよう関係者による努力がなされていることも紹介された。

16時45分、田畑先生より閉会宣言がなされ、記念式典は万雷の拍手のもと終了した。なお、シンポジウムの参加者は一般86名、招待17名であった。

式典終了後の17時より、「最新 OR 情報関連デモンストレーション」として隣接会場にて JR 西日本によるビデオの放映と、住友金属システム開発株式会社による株式会社スケジューラ研究所のソフトウェアのデモが行われた。ビデオでは新幹線500系のぞみに使われている最新技術が紹介されており、わかりやすいCGアニメーションで素人にも大いに楽しめる内容であった。また、工場向け生産スケジューリングシステム ASPROVA は日本工業新聞社の優秀賞を受賞した



多田・朝尾・三根各先生——懇親会場にて

優れた製品ということで、真剣に見入っている人や専門的な質問をする人の姿が見られた。

デモンストレーションに引き続き同会場で6時から懇親会が行われた。田畑先生の司会のもと、6支部をすべて回られる刀根先生が挨拶され、OR学会副会長の小金沢章吾氏の音頭で乾杯となった。料理は寿司から蕎麦まで豊富にあり、食べきれないほどであった。なごやかな雰囲気の中、あちこちでさまざまなお話で盛り上がっていた。最後はOR学会研究普及理事の中森真理雄先生、田村先生の挨拶で締めくくられたが、学問全般が軽視されているなか、学会としてORを積極的に提言していくべきだという40周年記念にふさわしい力強い言葉で懇親会が終了した。

末筆ながらシンポジウムのため遠方よりお越しいただき貴重なるご講演・ご報告をいただいた来賓・講師諸先生に感謝いたします。またご多用の中、シンポジウムの主旨にご賛同いただき、快くOA機器・ソフト展示にご協力いただいた協賛企業および多くの会員のご参加をいただいた協賛学会・団体に感謝いたします。

## 日本OR学会創立40周年記念 北海道支部記念行事 ルポ

若林 信夫 (小樽商科大学)

日本オペレーションズ・リサーチ学会創立40周年記念の北海道支部の記念行事は北海道支部創立35周年記念（脚注）と併せて平成9年11月11日（火）の午後、盛大に行われた。

当日は、晩秋の穏やかな1日であり、道内各地から総勢80名という多数の参加を見た。

場所は、札幌市の中心部にあるホテル「札幌ガーデン

ンパレス」であった。プログラムは、3部から構成され、第1部は記念式典であった。

関口恭毅実行委員長（北海道大学）による開会の辞の後、刀根薫 OR学会会長の挨拶、続いて戸井田弘北海道支部長（北海道電力）の挨拶があった。刀根会長からは、1957年（昭和32年）日本にOR学会が成立して、40年経ち、学会会員数も世界で2番目に多い国で

あることが報告され、国際的な評価も高いが、地域に根ざした活動も重要であり、21世紀に向けて一層の支援を要請された。

戸井田支部長からは北海道支部はこの35年着実にORの理論と実践を積み重ねてきたが、さらにオーストラリアOR学会のクインズランド支部との定期的な研究会を行うことを紹介された。その後、梅沢豊長期計画委員会委員長からOR学会の長期ビジョンについて最新版をもとに詳しい報告があった。

第2部の北海道支部会員による研究紹介は諸般の事情により、1件10分の持ち時間が8分になった。報告件数は全部で10件（別表のとおり）であり、皆、短い発表時間の中で要領のよいプレゼンテーションが行われ、刀根会長も感心されたようであった。北海道のORの話が少ないというコメントもあったが大内東氏の報告をはじめ地域の適用例も少なからずあった。

第3部は、特別講演であり、2件行われた。当初は、会告にもあったようにPra Murthy教授（オーストラリア、クインズランド大学）の“Operations Research and Product Warranties”も予定されていたが、ご家族の事情で来日できず、これに関しては、レジュメのみ配布された。

特別講演の最初は、刀根薫氏（政策研究大学院大学、OR学会会長）の「経営の科学としての新潮流」であった。筆者は、6月2日（東京）の記念シンポジウムでの同題の特別講演を拝聴しているが、今回は20分ほど講演時間が長かったので内容はかなり改版され詳しいものであった。OR誌1997年10月号の668ページで報告されているようにORは「自由独立」「独創性」



関口実行委員長

「展開力」「実現力」が相乗的に活用されて「知のインフラ」となることが求められていると結論した。藤田敏治氏（九州工業大）の記念論文についても紹介された。

続いての講演は、戸田一夫氏（北海道経済連合会会長、OR学会フェロー）の「北海道の産業振興とOR」であった。氏は、学会支部創設当時から貢献されているが、折から、KLMオランダ航空機が北海道（新千歳空港）に乗り入れたことを記念する行事に参加され、ヨーロッパからお帰りになったばかりであった。北海道産業の実情を紹介したのち、北欧フィンランド、特にオウル市の産業戦略を紹介し、北海道の産業振興に産業クラスターの考え方を導入することを提案された。

クラスターとは房とか群を意味しているが、幹になるものが重要であること、産業クラスターの形成にはシステムティックな取り組みが必要であり、産学官の協力が必要なことなどを説明された。また、ORワー



戸井田弘北海道支部長挨拶



刀根 OR 学会会長挨拶

カーは北海道の産業振興に奮起されたいとゲキを飛ばされた。

特別講演も予定時間をやや超過したものの、楽しくかつ有意義に聞くことができた。

引続き懇親会が同ホテルで行われ、盛大かつ和気あいあいのうちに閉会となった。

なお、北海道支部の記念行事は、今回のシンポジウムのほかに支部会員の研究を企業向けに説明する記念出版を計画している。

最後に、本記念行事の準備と実施には北海道電力(株)業務高度化推進室の福居氏の多大なご支援をいただいたことを明記しておく。

(脚注) 北海道支部の誕生は、1962年(昭和37年)のことで当時小樽商科大学の古瀬大六教授を支部長に北海道大学、国鉄札幌管理局、電々公社、北海道電力等の新進気鋭のメンバーで発足した。中部支部も同年のことである。(OR誌1983年1月号p.5参照)

(別表)

OR学会北海道支部会員による研究紹介

発表順(\*=発表者)

(1) \* 関口恭毅(北海道大学経済学部)

「意思決定問題記述の構造化の一方法」

(2) \* 穴沢 務(札幌大学経営学部産業情報学科)

「確率的基準等を最適化するツリー型ネットワークについて」

(3) \* 杉原英治, 北 裕幸, 長谷川 淳(北海道大学), 西谷健一(北海道工業大学), 白崎 隆, 佐藤 卓(東北電力)

「電気事業における信頼度別電気料金メニューの設計手法」

(4) \* KOUAMENAN Aska Juste, 北 裕幸,



戸田フェロー

田中英一, 長谷川 淳(北海道大学)

「An Evolutionary Programming Solution to the Unit Commitment Problem」

(5) \* 山口 忠(室蘭工業大学), L.フォルド(ワイカト大学)

「グラフ上のサイクルロケーション問題」

(6) \* 浅利英吉(北海道文理科短期大学)

「国情総合調査」

(7) \* 大堀隆文, 渡辺一央(北海道工業大学電気工学科)

「ニューラルネットによる脳の認知機能と最適化能力の実現」

(8) \* 行方常幸(小樽商科大学商学部社会情報学科)

「コーディネーションを望むプレイヤーによる繰返しゲーム-非定常マルコフチェーンによるモデル化-

(9) \* 大内 東(北海道大学大学院工学研究科)

「調和系工学の地域医療システムへの応用」

(10) \* 山本雅人(北海道大学大学院工学研究科)

「DNA 計算の組合せ問題への適用」



懇親会参加者